

事業活動実績報告書

施設名	あすなろ幼稚園
教育理念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む
1 事業名	自分と向き合い、人に向き合おう
2 実施期間	令和 7年4月1日 ～ 令和8年3月31日

3	取組概要	（取組日） 令和7年6月12日 ～ 令和7年6月12日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 幼稚園の隣で、普段から境内でも遊び、園生活でも身近な本堂だが、園児が中に入るのは年に3回で、その1回が弘法大師生誕日6月15日。滅多にない機会だからこそ、幼稚園とは違う本堂の雰囲気や、いつもと違う住職や副住職の雰囲気を感じ取り、椅子に姿勢を正して座ることや正座、大きな声を出さないなど、それに相応しい態度を取る体験を通し「場の空気を読んで相手を不快にさせない振る舞い」を学ぶ。 全学年の園児が瞑想法「阿字観」の第一歩として、1分目を瞑って黙ってみる。その間「何を考えてもいい」と伝えておき、瞑想後に何を考えていたか聞く。その答えこそが今自分の心に浮かんできたことで、今自分が考えたいことなのだ、と伝え、と園児は一緒にびっくりした顔をする。つまり、園児はこのとき初めて（もしくは改めて）自分の中の「こころ」の存在を認知し、それが自分の思うままにないことを体感する。 その後、園児は甘茶を飲む体験をする。	
		（取組日） 令和8年1月19日 ～ 令和8年2月6日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年長クラスが住職の指導の元、お書初めに挑戦する。お題目は「友だち」とし、そこに自分の名前も書く。書き初めに臨むに当たり、自分自身を形作るのは自分だけではなく、周囲の友だちによって自分が形成される、といった主旨の話を住職から聞き、その尊さを感じながら真っ白な書き初め半紙に向き合う。作品は全員分を飾り、互いの作品を見合い、保護者にも公開する。	
		（取組日） 令和7年11月27日 ～ 令和8年3月18日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年長クラスがクラスごとに「鐘撞き堂で一人1回鐘が撞き、お菓子和ミカンを食べる」「住職の有り難くて長い話を聞いてからお菓子和ミカンを頂く」の2択からクラスで相談して選び、2月に体験する。さらに卒業式直前に住職から「人生とは」という話を聞く。	

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名	あすなろ幼稚園				
教 育 理 念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む				

事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
	健康 ○	人間関係 ◎	環境 ○	言葉 ○	表現 ○
1 事業名	自分と向き合い、人に向き合おう				
2 事業概要	・名誉理事長が住職を務める妙厳寺本堂にて、宗祖弘法大師生誕日に甘茶を体験し、祝菓子を食べたり、住職から法話を聞いたり、瞑想して自分自身と向き合う時間を設けたりする ・新年の書き初めに「友だち」と書き、友達の大切さをみんなで考える。作品をお楽しみ会会場のホールに全員分貼る ・園内イベントのブライスレスな賞品として妙厳寺の鐘撞き堂で鐘つきしたり、畳の客殿で住職から法話を聞いたりする				
3 対象学級(クラス名) 対象人数	全学年、全クラス(クラス名: 11)			228 名	
計画時 4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況				
	・青葉まつり: 妙厳寺名誉住職(名誉理事長)、妙厳寺住職(職員)・保育補助5人 ・住職のお話: 妙厳寺名誉住職(名誉理事長)、妙厳寺住職(職員)・保育補助2人 ・書き初め: 妙厳寺名誉住職(名誉理事長)、妙厳寺住職(職員)・保育補助4人				
事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・青葉祭り参加者を全学年対象のため、特に満三歳クラスの甘茶体験や本堂体験において保育補助が手厚く必要となった。 ・本取り組みについて、園だよりにて保護者にも詳しく伝えた。そのことで保護者の方への活動のご理解が深まったと感じた。 ・書き初め用半紙は手に入る時期と地域が限られているので注意が必要。 ・今年度は書き初め用の墨汁の補充が必要だった。 ・一人一人の書き初め後に作品が乾くまでの保存場所がなく、テラスにロープを張って洗濯ばさみで干したが、結果として風に吹かれ乾ききらない墨が垂れないよう、作品に影響がないよう職員総出の取込みとなった。子どもの作品を守るために対処法を検討していきたい。 ・子ども達の書き初めを保護者の皆様にご披露するべく、ホール一周にロープを貼って張り出したが、全員が不公平ないように張り出すことに苦心した。次年度は新しい見せ方を検討していきたい。			
	5 事業のねらい	・「場の空気を読み、相手を不快にさせない振る舞い」を学ぶ。 ・瞑想体験から自分の心と向き合い、心を知る ・立ち止まって、今とこれからを考える体験を通し、能動的に幸せになろうとする			
事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・本取り組みについて、園だよりにて保護者に詳しく伝えた。各家庭での会話に繋げていただくようお願いした。次年度はより保護者の方へ活動の理解を深めていきたい ・住職からの人生についての話をきいたうえで、卒業式でさらに保護者とともに今後の生き方についての話を聞くことで、子ども達のなかで層となって内容がしみこんでいくように感じた。保護者からもこうした話を園でしてくれることへの感謝を得た。			

6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・幼稚園の隣で、普段から境内でも遊び、園生活でも身近な本堂だが、園児が中に入るのは弘法大師生誕日6月15日前後の保育日と年度末の1年に3回。滅多にない機会だからこそ、幼稚園とは違う本堂の雰囲気や、いつもと違う住職や副住職の雰囲気を感じ取り、椅子に姿勢を正して座ることや正座、大きな声を出さないなど、それに相応しい態度を取る体験を通し「場の空気を読んで相手を不快にさせない振る舞い」を学ぶ。 ・真言宗に伝わる瞑想法「阿字観」の第一歩として、1分目を瞑って黙ってみる。これを満3クラスも含め全学年行う。その間「何を考えてもいい」と伝えておき 瞑想後に何を考えていたか聞く。その答えこそが今自分の心に浮かんできたことで、今自分が考えたいことなのだ、と伝えと、園児は一樣にびっくりした顔をする。つまり、園児はこのとき初めて(もしくは改めて)自分の中の「こころ」の存在を認知し、それが自分の思うままにならないことを体感する。 ・年長クラスがクラスごとに「鐘撞き堂で一人1回鐘を撞き、お菓子とミカンを食べる」「住職のお茶とお菓子とミカンのおもてなしを受ける」「住職の有り難くて長い話を聞いてからお菓子とミカンを頂く」等を年度末に体験する。さらに卒園を前に住職から「人生とは」という話を聞く。 ・「書き初め」は住職から「自分自身を形作るのは自分だけではなく、周囲の友だちによって自分が作られている」旨の話を聞き、お題目「友だち」と自分の名前を書き初め用半紙に自分自身と向き合いながら臨む。半紙の予備は基本用意せず、一発勝負の緊張感を味わう。活動後は全作品を掲示し、互いに見合うとともに、保護者にも公開する
	上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 「領域『人間関係』の内容(5)」 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。←自分の心を意識することで相手の心を思う心を育む。友達とは何か、考える機会をもつことで、その価値や存在を意識する。 「領域『人間関係』の内容(6)」 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。←自分の心を意識することで相手の思いや考えを想像する視野の広さを養う。 「領域『人間関係』の内容(9)」よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。←良いことはどんどんしなさい、わるいことはしてはならない。でも何が良いことで何が悪い事かはその都度自分が考えなければならない、という難しさを子ども達に問いかけ、考えてもらうことで日常の自分の行動に還元していく。
	(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点 ・今年度からお寺での住職からの「人生について」「生きることについて」「ともだちについて」といった、一人一人が考えるきっかけを提示するお話をこれまでの2月にクラスごとにお菓子等のおもてなし付きで実施するだけでなく、卒園式直前のちよう子ども達も小学校や卒園を意識している時期に再度、機会を設けることとした。さらにその話にリンクさせた話を卒園式でも壇上から住職が「卒園式の理事長挨拶」として話した ・今年度から全員の書き初めを一堂に張り出し、保護者の皆様に見て頂く機会を設けた。
事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・卒園式で「人生」「生きる」「友達」の話を保護者とともに子ども達が聞くことで、より鮮明に強烈に考える機会となった。二度三度と子どもたち一人一人のなかで、その時難しくて深い理解まで届かなかったとしても、強烈に印象付けられ、何か躓いた時に踏ん張れる突っかかり棒の役目を果たしていくのではないかと感じた。そうした意味で、回を増やしたことはとても有意義だったと思う。 ・全学年を対象とし満三歳クラスの子も達にどうアプローチするのか、今年度も懸念事項であり、工夫が必要だったが、こちらの予想以上に活動をしっかり満喫していたことを感じた。幼いからと言って子ども扱いせず、幼いからこそ、しっかり一人ひとりの心に向き合っていく必要を学んだ。 ・今年度から全員の書き初めを一堂に張り出し、保護者の皆様に見て頂く機会を設けたことでより一層それぞれの個性が引き立つ結果になったと思う。保護者の皆さんからも大変ご好評を頂いた。

計画時	7 環境構成例	・当園は宗教園を謳っていないため、年に2回の本事業に対し、抵抗を覚える家庭もある可能性があるため、事前に本事業の趣旨と拒絶する権利があることを周知しておく ・宗教上等の理由から甘茶を飲めない家庭もある可能性があるため、事前に甘茶を飲ませてよいか各家庭に確認しておく ・当日、甘茶を子どもが飲んでもあまり抵抗のないような濃度で作っておく ・本堂を子どもが入っても、また甘茶を零されても良いようにビニールシート等で保護しておく。 ・書き初めに取り組む部屋にビニールシートを敷き詰め、乾かす時に他学年児が入らないよう配慮する。液だれしないよう、風に飛ばないように工夫する
	事業後 7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・今年度は在園児に宗教的観点から本事業に抵抗を覚える家庭はなかったが、多種多様な宗教的背景を持つご家庭の園児をお預かりすることを考慮し今後も保護者に対し、丁寧に説明をしていく必要がある。 ・特に満三歳クラスの甘茶補助は手厚く人員を確保することで他学年に対しても一人ひとりの甘茶体験がより豊かになる。 ・書き初めを早く乾かすためにテラスに張り出したが、そうすると風に吹かれて作品が汚れたり墨汁が垂れたりする懸念が生じた。それを防ぐため、職員総動員であたったため、次年度はそうした環境構成も十分に検討・改善したい。
計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・体験後に各家庭で本事業のことを話し合うなど、その場だけのものではなく家族で人生や日常を立ち止まるきっかけになればと願う。 ・これから体験する様々な初めての場所においても、その場に相應しい態度を 図れるようになればと願う。 ・人生で躓いた時に踏ん張れる力になればと願う。
	事業後 8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・当園のインスタグラムでの動画や園だより、HPのアルバムコーナーで写真と共に様子を伝えることで、年中・年長の御家庭だけでなく、満三歳クラスや年少のご家庭での本事業についての会話や振り返りなど、期待以上の効果や反響があった。 ・その後の園外での集団行動においての態度や、園内に見学者を迎えた時の対応など、園児一人一人が自分でその時その場に相應しい態度を考える一助になった。
9 効果検証総括		事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・普段身近に見てはいても入ることのない本堂という宗教施設に入り、住職の話を聞いたり、甘茶やお菓子やみかんで「おもてなし」をうけたりするという、「大人扱い」「お客様扱い」といった、園児にとって自分たちが通常されていない上級もしくは上等の「扱い」を受けることによって、それに見合う振る舞いをしたい、という園児一人ひとりの主体的な思いを育てていた。 ・日常は日常として丁寧に積み重ねつつ、時折こうした「非日常」を園生活に盛り込むことで、今後の人生で降りかかってくるだろうイレギュラーな場面でも一人一人が自分で自分のふるまいを考え判断し、行動できるための経験値を積めると実感できた。そのための機会であれば、究極、宗教施設でなくても話を聞くのが住職でなくても良いのだと思う。（例えば美術館や学芸員でも） ・ただ、園児が施設内のものを壊してしまうとか話す相手に失礼を働くといったリスクを、本事業であれば、それを承知の上で行うことが出来る、というところに、当園の強み、特色が活かされたと感じた。 ・書き初めは、体験そのものが園児の経験値となり、意義がある。その出来いかんではなく、あくまでも取り組む姿勢や自分自身と向き合う機会としての価値を置くために、予め自分にとっての「友だち」を考える機会をもってから活動に臨む等の準備により、さらに一人ひとりの心の財産になっていくと感じた

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。